

成り、遂に男三人背中合せと成つて、互に手に手を取り、各々前に女房を控へ、チリと一廻りする。此間下座にて

「怪氣らしいが、よく聞かしやんせ、愚痴に成つたもお前故、叱りやしやんすな妻ぢやとて何の言ひたい事はない」

と唄ふ。

耳貴様は一體何處へ入らつしやるのです。

吾輩はお前のヒステリーを忍ぶ事が出来んから、此川へ身を投げて死ぬ

前に、皆さんと一緒に藝妓を招んで、遊んでく遊び抜くのだ。

「ヤイ、何處へ行きやがるんだ！」

「(死にも狂ひにて) サア矢でも鐵砲でも持つて来い、斯う成りや手前なんざ恐くも何とも無へんだ。是からな、旦那方の御供をして、酒を

飲んで、甘い物を喰つて、女狂をして、而して此川へ身を投げて死んでしまふんだ。

「お前さんは何をなさる。

「當俺もお前に喰殺される前に御兩人と遊びに出懸けて、一思ひに身を投げるんだ。

遊びに行くぞ聞いて、女三人今迄の勢何處へやら。

耳(シク)泣ながら) 貴郎他の事なら何を爲すつても構ひませんが、遊びに行く事だけは御止め下さいまし。

「お八さん、お前さんも女狂を爲るの丈けは止して御呉れ、妾も是から氣を付けるから。

「御祖父さん、御前さんも其年で浮氣をするだけは止めて下さい、モウ決

して引掻きません。

男三人顔見合せ、ニッコと笑ひ、

善夫れでは、お前は必ずヒステリーを止めますか。

耳モウ屹度愼みます。

△手前もモウ怒鳴らねわか。

△大丈夫止めるよ。

△以來何んにも申すなよ。

△南無阿彌陀佛く。

男三人各々女房の手を取り、

非男△御蔭でよう／＼治りました。

互に禮を言う模様にて幕。

新喜劇集終

明治四十一年九月十一日印刷

(定價金八拾五錢)

明治四十一年九月十四日發行

著作者

太郎冠者

不許

東京市神田區通新石町三番地

發行者

吾妻健三郎

複製

東京市神田區通新石町三番地

印刷者

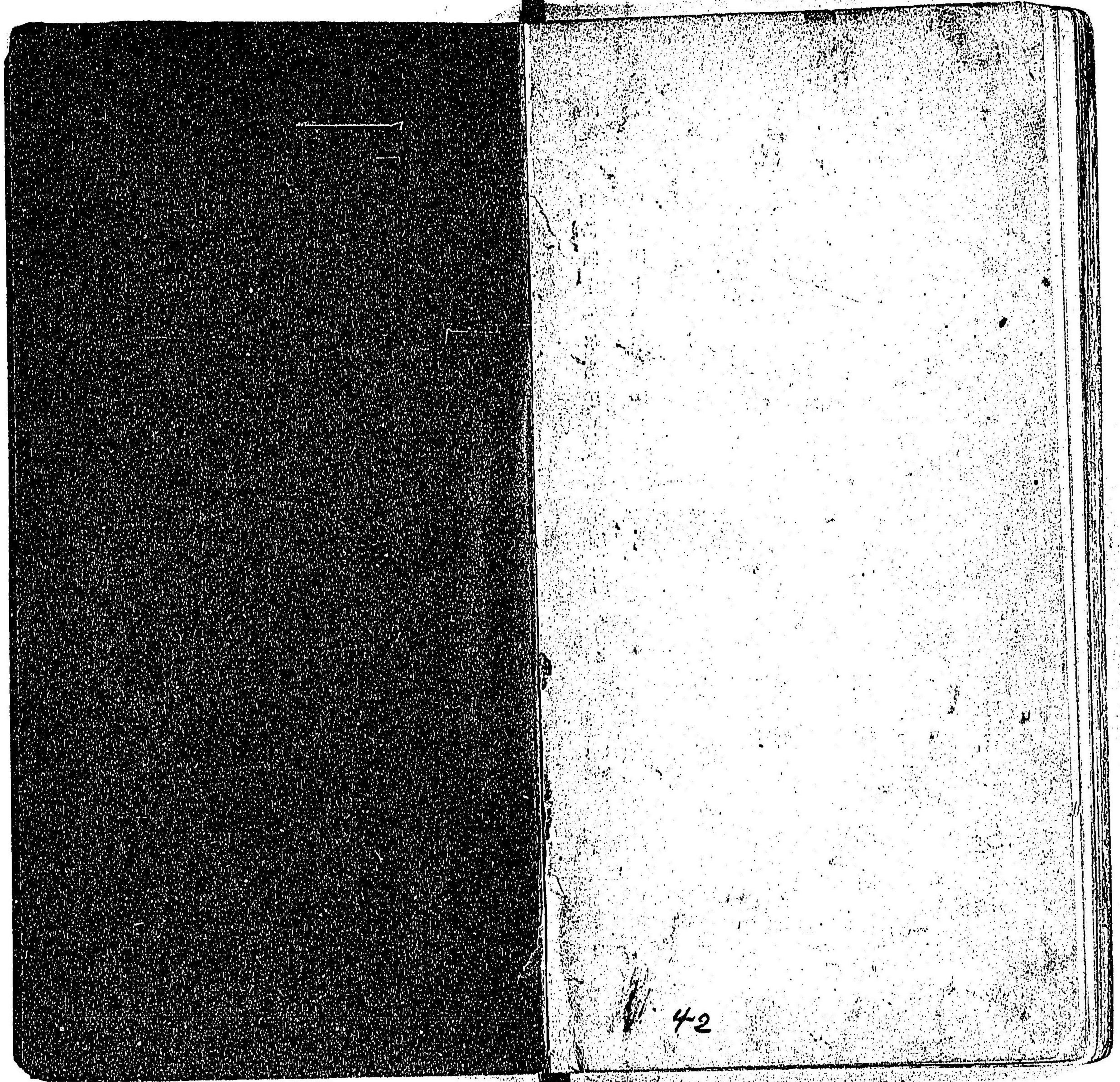
田中市之助

東京市神田區通新石町三番地

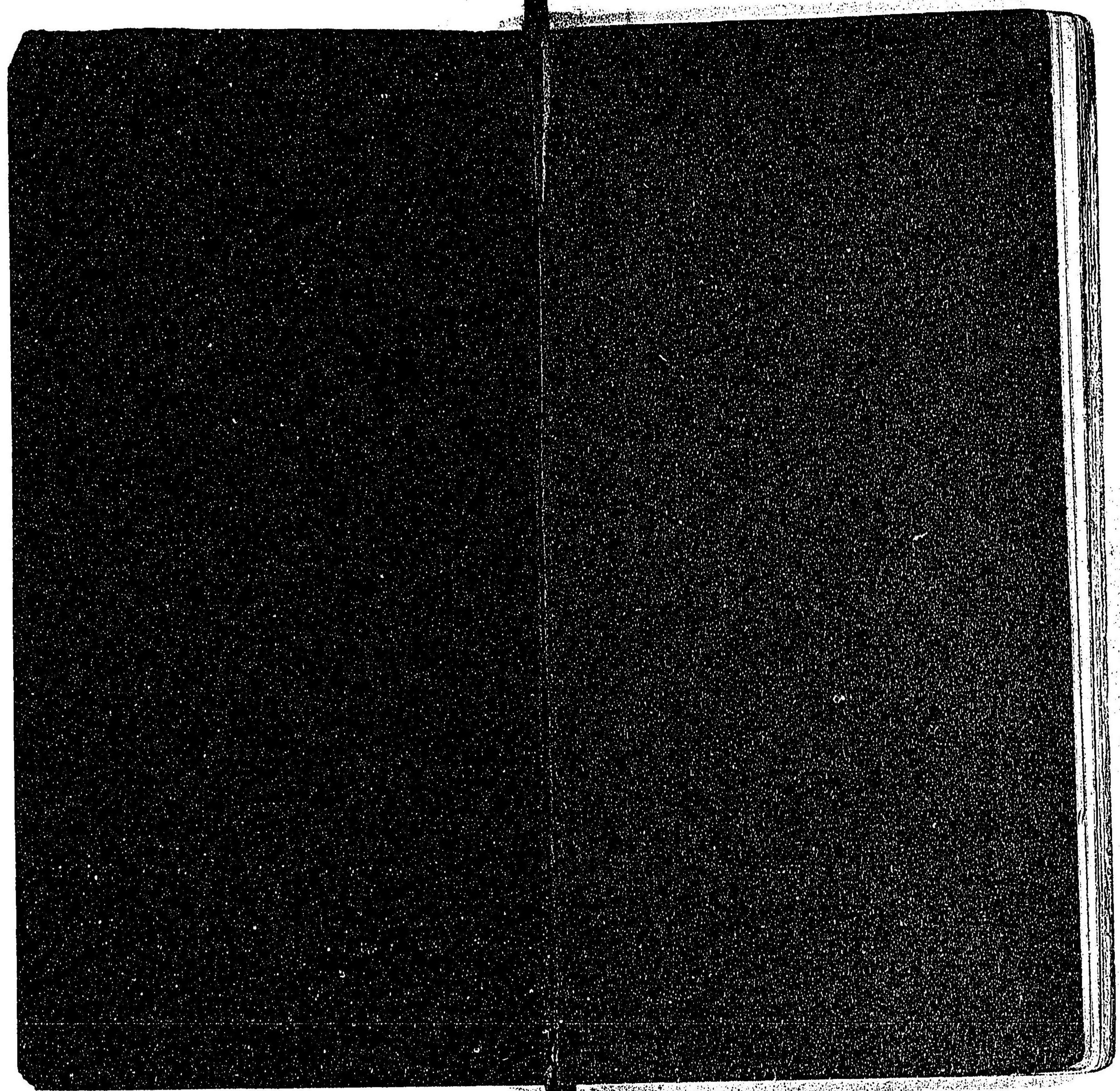
發行所

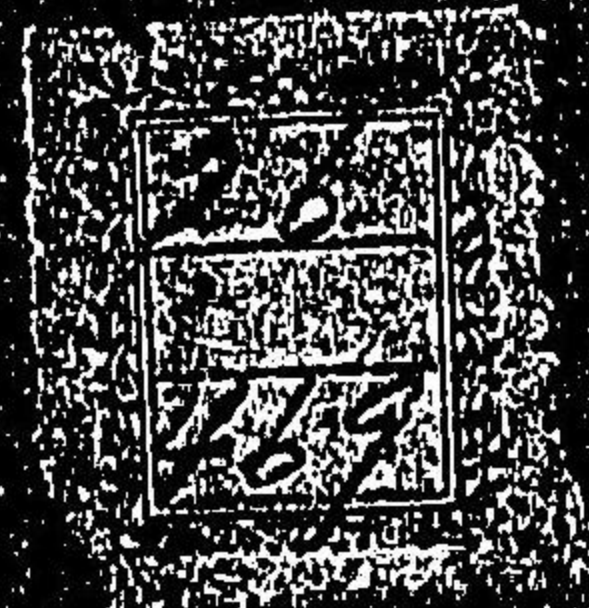
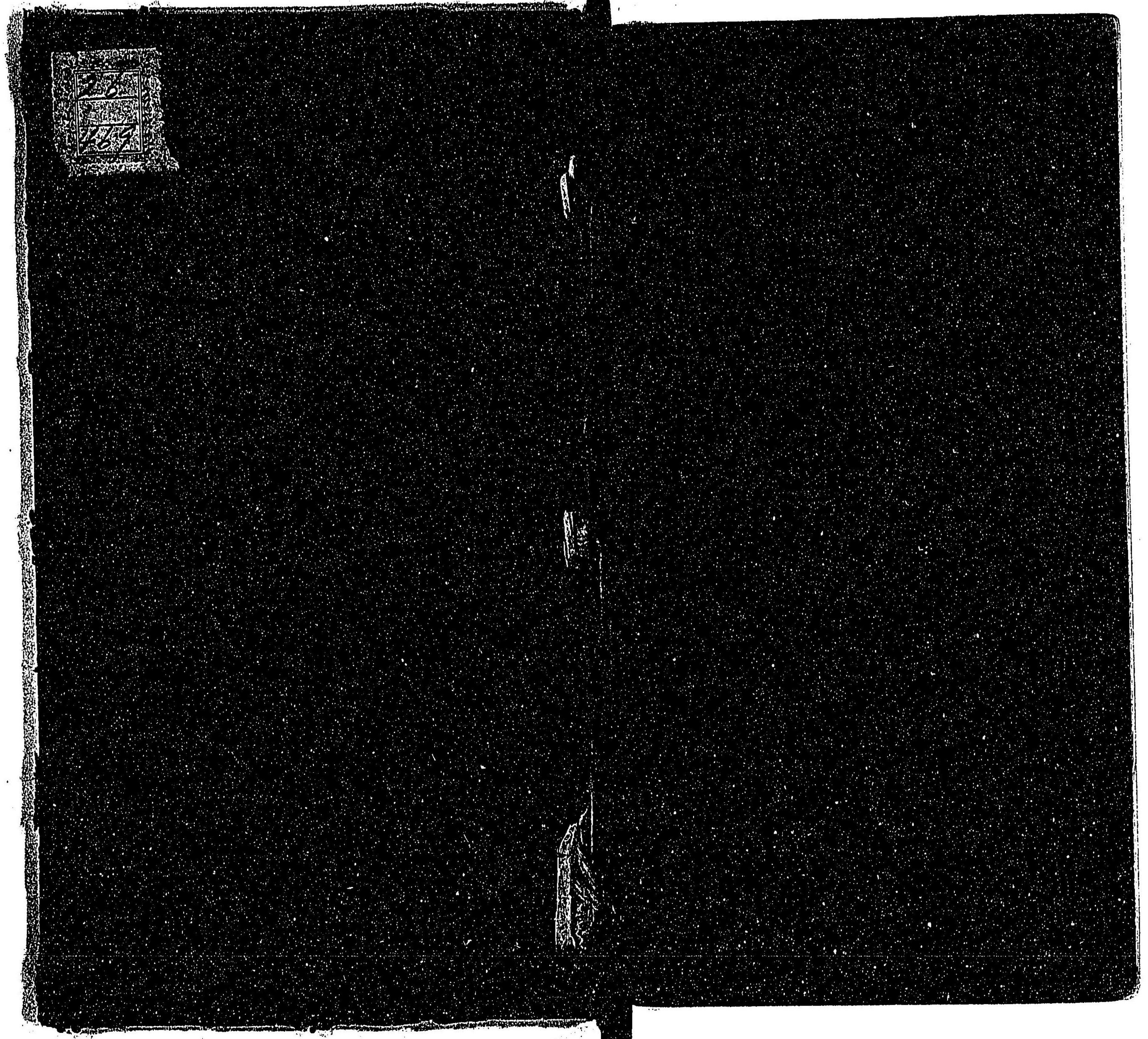
東陽堂

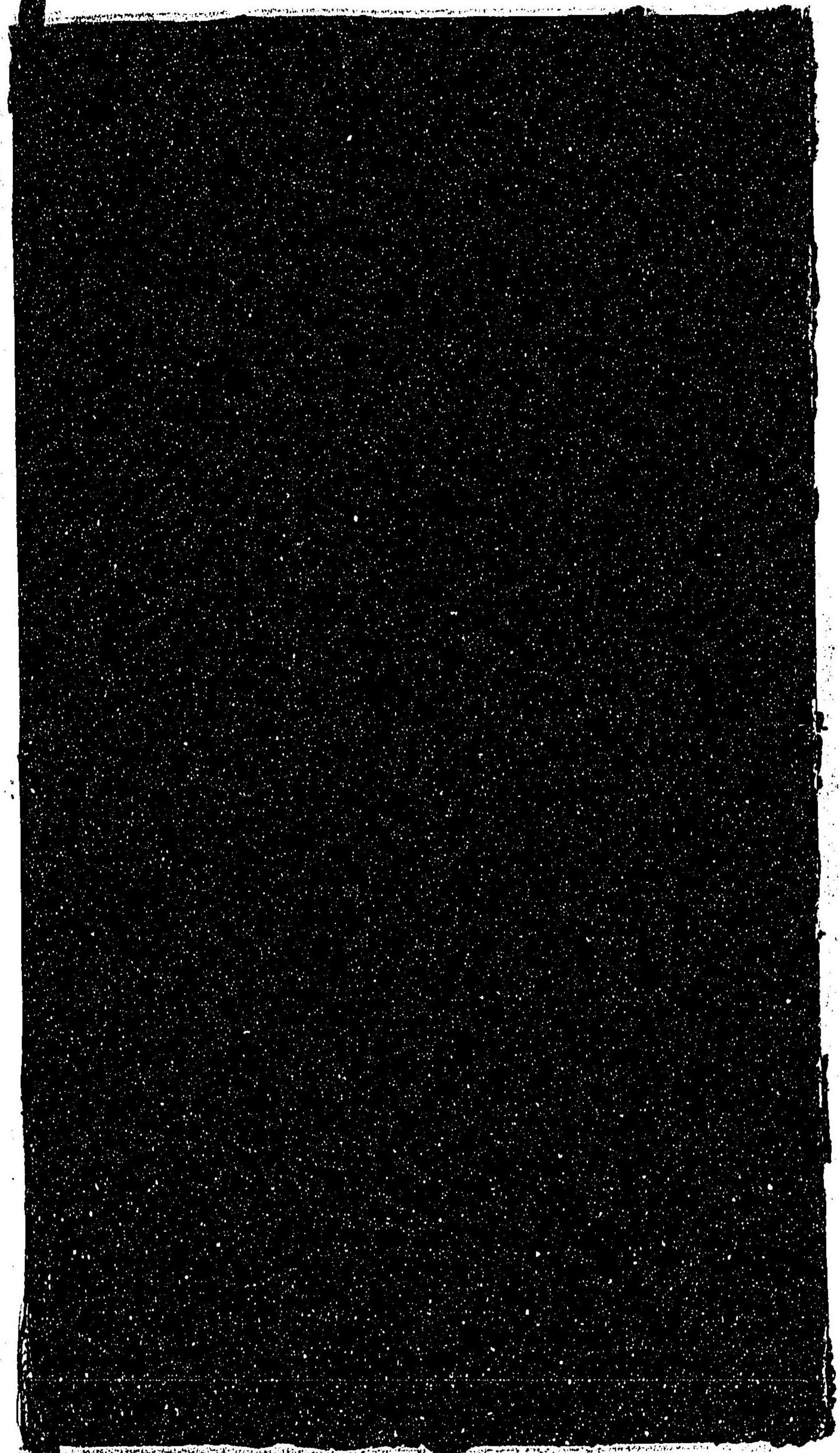
電話本局九百七十六番
振替貯金口座一九〇六番



42







088878-000-4

26-469

新作喜劇集

益田 太郎冠者 / 著

M41

DBK-0061

